別紙２－１

地球環境分野の施策の進捗状況

１　事業の取組状況

・　本計画からの新規事業（6 事業）の全てで事業化に向けての具体的に検討を開始したほか，家庭における省エネ・低炭素化の促進策として家庭における創エネ・蓄エネ導入支援制度については事業を実施するなど順調に進捗している。

・　取組を拡充した取組についても，LRT 沿線の低炭素化に向けた「宇都宮市モデル地域創生プラン」など具体的な検討を進めたほか，大谷地域では地域に賦存する冷熱エネルギーの活用に向けた実証試験を実施。

・　その他の事業についても，着実に施策・事業に取り組んでいる状況。

２　指標の状況

・　計画期間初年度（平成 28 年度）における地球環境分野の指標の進捗状況は，8 の指標のうち 6 の指標について，達成率が 9 割以上（評価 A）で進捗している。

・　7 割以上 9 割未満(評価 B)となった「1-3-2　公共交通の年間利用者数」についても，8 割後半となっており概ね順調に進捗している。

・　一方，7 割未満（C 評価）となった「1-1-1　一世帯当たりの CO2 排出量」は，基準年度と比較し排出量が増加しており，目標達成に向けて更なる普及啓発の推進や具体的な方策の検討が必要。

※　指標に関するデータについては裏面（2 ページ）参照

参考：各指標と達成状況

基本事業名・【指標名】	参考値に対する進捗状況（%）
1-1-1　家庭における省エネ・低炭素化の促進 【指標】一世帯当たりの CO2 排出量	C（基準値より低下）
1-1-2　事業所における省エネ・低炭素化の促進 【指標】省エネセミナーに参加した事業者数	A（97.4%）
1-1-3　市役所における省エネ・低炭素化の促進 重【指標】市有施設における CO2 排出量	A（100%以上）
1-2-1　創エネルギー・畜エネルギーの利活用の推進 重【指標】太陽光発電設備導入世帯数	A（100%以上）
1-2-2　地域のポテンシャルを生かした新たなエネルギー等の利活用の促進 重【指標】冷熱エネルギーを活用した事業への参入者数	A（100%以上）
1-3-1　環境負荷の少ない都市整備の推進 【指標】特定規模電気事業者（PPS）等を活用した市有施設数	A（100%以上）
1-3-2　エコで利用しやすい交通体系の構築 重【指標】公共交通の年間利用者数	B（85.8%）
1-3-3　気候変動への「適応」に関する普及啓発 【指標】「適応」をテーマとした出前講座等の啓発回数	A（100%以上）

※進捗状況は，宇都宮市行政評価の評価基準に基づき以下のとおり設定

A：参考値に対する進捗状況が 90%以上

B：参考値に対する進捗状況が 70%以上

C：参考値に対する進捗状況が 70%未満及び基準値未満の状況

参考：「評価 C」となった指標の状況

指標	１－１－１　一世帯当たりの CO2 排出量（削減量）					単位	t-CO2/年
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	H32
参考値		7.32	7.14	6.96	6.78	6.6	6.4
実績値	7.5	7.82	―				
進捗状況		C （基準値より低下）	―				

【要因】

平成 26 年度(7.98t-CO2/年)との比較では減少しているものの，目標達成に向けての参考値には届いていない。理由としては，市民生活における運輸部門（自家用車の利用状況）が高いことや，家庭における省エネ行動への取り組みがまだ不足しているということが想定される。

【今後の対応】

今後，目標達成に向けて，日常生活における省エネ行動の推進や家庭向けの太陽光等の普及促進，ＬＲＴ整備と併せた公共交通網の再構築など，本市独自の取組を着実に推進していく。

※参考①　一世帯当たりの CO2 排出量は，家庭部門に運輸部門の一部，廃棄物部門の一部を合算し，一人当たりの排出量を算出した後，当該年度の平均世帯人数に乗じて算出

※参考②　進捗状況の評価は，基準年度からの参考値（削減量）に対し当該年度の削減量の割合により算出

別紙２－２

廃棄物分野の施策の進捗状況

１　事業の取組状況

・　本計画からの取組を拡充した，もったいない生ごみの減量化に向けた普及啓発においては，さまざまな機会を通じた市民向けの周知啓発を実施。
・　各種施設においては，川田水再生センターにおいて消化ガス発電施設の供用開始したほか，中間処理施設及び最終処分場の整備に向けた建設工事（実施設計）着手するなど，こちらも順調に進捗している。
・　その他の事業についても，着実に施策・事業に取り組んでいる状況。

２　指標の状況

・　計画期間初年度（平成 28 年度）における廃棄物分野の指標の進捗状況は，7 の指標のうち 5 の指標について，達成率が 9 割以上（評価 A）で進捗している。
・　一方，7 割未満(評価 C)となった「2-2-1　廃棄物系バイオマスの資源化量」は，参考値に対して約 5 割の進捗状況と遅れていることから，廃棄物系バイオマスの資源化量の更なる拡大を図るための体制構築や，事業者に対する誘導が必要。
・　また，「2-2-3　リサイクル率」は，　基準年度よりもリサイクル率が低下していることから資源化量の拡大を図るための取組の推進が必要。

表：各指標と達成状況

基本事業名・【指標名】	参考値に対する進捗状況（%）
2-1-1　発生抑制の推進 【指標】ごみ総排出量	A（100%以上）
2-1-2　再使用の推進 【指標】布分類別協力率	A（100%以上）
2-2-1　ごみの資源化の推進 【指標】廃棄物系バイオマスの資源化量	C（58.7%）
2-2-2　公共施設における資源化の推進 【指標】脱水汚泥の再資源化率	A（100%以上）
2-2-3　地域循環の新たな創出に向けた施策の推進 ㊟【指標】リサイクル率	C（基準値より低下）
2-3-1　適正な処理体制の整備・推進 【指標】多量排出事業者に対する指導割合	A（100%以上）
2-3-2　不法投棄の未然防止，拡大防止 【指標】不法投棄発生件数	A（94.4%）

※進捗状況は，宇都宮市行政評価の評価基準に基づき以下のとおり設定
A：参考値に対する進捗状況が 90%以上
B：参考値に対する進捗状況が 70%以上
C：参考値に対する進捗状況が 70%未満及び基準値未満の状況

参考：「評価C」となった指標の状況

指標	２－２－１　廃棄物系バイオマスの資源化量					単位	t/年
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	H32
参考値		―	300	600	900	1,200	1,500
実績値	113	126	176				
進捗状況		―	C (58%)				

【要因】

スーパーマーケットなどの生ごみを大量に排出する事業者が民間施設を活用して資源化する取り組みが進んでいるが市では正確な量を把握できないため，実績値には反映できず，目標値を達成できていないものの，剪定枝や廃食用油について，拠点回収の取組が定着してきたことなどにより，回収量が増加し，資源化量の着実な拡大が図られている。

【今後の対応】

今後は，剪定枝の効果的・効率的な回収体制の構築や，生ごみを多量に排出している事業者の排出実態を調査した上で資源化への誘導を図るなど，廃棄物系バイオマスの資源化量のさらなる拡大を図り，目標値の達成を目指していく。

指標	２－２－３　リサイクル率（ごみの総排出量の内，市施設等で資源化された量と集団回収量の割合）					単位	%
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	H32
参考値		―	19.1	20.0	20.9	21.8	22.9
実績値	18.2	17.9	17.3				
進捗状況		―	C （基準値より低下）				

【要因】

基準年と比較し，紙類など資源物の行政回収量や集団回収量が減少傾向にあり，資源化可能な各種容器包装の素材の軽量化が進んでいることや新聞や雑誌等の発行部数の減少などにより，目標値が達成できなかったものの，スーパーマーケット等小売店舗の店頭において独自に資源物を回収しているなどの回収ルートの多様化などにより，民間の回収ルートを活用した市民のリサイクルの取り組みが進んでいるものと考えられる。

【今後の対応】

今後は，店頭回収の現状を調査するなどにより，実態を踏まえながら市民がより一層リサイクルに取り組みやすい環境づくりに取り組むとともに，剪定枝や使用済小型家電の資源化など循環利用の推進による資源化量の拡大を図っていく。

別紙２－３

自然環境分野の施策の進捗状況

１　事業の取組状況

・　本計画からの新規事業（3 事業）の全てで事業化に向けての具体的に検討を開始。
・　生物多様性に係る出前講座については，本格的な事業の実施に向け，教材の作成，試行的な出前講座を実施するなど順調に進捗。
・　「宇都宮生きものつながりプラン」策定とともに拡充した取組についても，もったいないフェア 2016 やエコまつり 2017 において自然ふれあう機会の提供としてネイチャーゲームを実施。
・　その他の事業についても，着実に施策・事業に取り組んでいる状況。

２　指標の状況

・　計画期間初年度（平成 28 年度）における自然環境分野の指標の進捗状況は，8 の指標のうち 7 の指標について，達成率が 9 割以上（評価 A）で進捗している。
・　一方，7 割未満(評価 C)となった「3-3-1　耕作放棄地面積」については，基準年度と比較し，耕作放棄地の面積が増加しているため，耕作放棄地の解消・再生利用の推進や未然防止の取組の検討が必要。

表：各指標と達成状況

基本事業名・【指標名】	参考値に対する進捗状況(%)
3-1-1　生物多様性保全に関する意識の醸成 【指標】生物多様性保全の意識を持った自然ふれあい活動の体験者数	A（90.2%）
3-1-2　生きものとその生息・生育環境の保全の推進 重【指標】外来種の影響に関する認知度	A（100%以上）
3-2-1　農地や森林の多面的機能の維持向上 【指標】市内農地における環境保全活動カバー率	A（100%以上）
3-2-2　都市の緑の保全と創出 【指標】市民一人当たりの都市公園面積	A（97.6%）
3-2-3　水資源の確保 【指標】雨水貯留設備の補助件数	A（95.3%）
3-2-4　河川環境の保全と創出 【指標】自然生態系などに配慮して整備している河川の整備率	A（100%以上）
3-3-1　土地機能の維持や活用の推進 【指標】耕作放棄地面積	C（基準値より低下）
3-3-2　良好な景観の保全・創出 【指標】景観形成重点地区等の指定数	A（100%）

※進捗状況は，宇都宮市行政評価の評価基準に基づき以下のとおり設定
A：参考値に対する進捗状況が 90%以上
B：参考値に対する進捗状況が 70%以上
C：参考値に対する進捗状況が 70%未満及び基準値未満の状況

参考：「評価 C」となった指標の状況

指標	３－３－１　耕作放棄地面積					単位	ha
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	H32
参考値		―	46.6	40.0			
実績値	53.2	56.4	59.6				
進捗状況		―	C （基準値より低下）				

【要因】

耕作放棄地の解消・再生利用は進んでいるものの，農業従事者の高齢化と担い手の減少により，新たに発生した耕作放棄地の面積が上回ったため，結果として耕作放棄地面積が増加した。

【今後の対応】

引き続き，耕作放棄地の解消・再生利用を進めるとともに，新たな耕作放棄地を発生させないために，今後，市農業委員会に新設される農地利用最適化推進委員による農地の農業上の利用の確保のための活動と連携を図りながら，耕作放棄地発生の未然防止に取り組んでいく。

別紙２－４

生活環境分野の施策の進捗状況

１　事業の取組状況

・　本計画からの新規事業（1 事業）である，低炭素型モビリティの導入促進に向けた取組についても家庭向け低炭素化促進事業に電気自動車等を補助対象として取り入れるなど事業化を実施。

・　生活環境分野の施策・事業の多くは，法令等に定められたものであるため，法令等に基づきながら着実に施策・事業に取り組んでいる。

２　指標の状況

・　計画期間初年度（平成 28 年度）における生活環境分野の指標の進捗状況は，9 の指標のうち 7 の指標について，達成率が 9 割以上（評価 A）で進捗している。

・　一方，7 割未満(評価 C)の進捗状況となった「4-1-3　電気自動車補助件数」については，達成状況が 1 割にも届いていない状況のため，今後，抜本的な対策を講じる必要がある。

・　同じく 7 割未満(評価 C)の進捗状況となった「4-2-2　工場・事業場における排出基準超過件数」については，4 件の排出基準超過が発生したが，指導した結果，現在の超過件数は 0 件となり，目標を達成している状況。

表：各指標と達成状況

基本事業名・【指標名】	参考値に対する進捗状況（%）
4-1-1　監視体制の整備と充実 【指標】光化学オキシダントの環境基準達成率	A（92.7%）
4-1-2　発生源対策の充実 【指標】工場・事業場における排出ガス基準超過件数	A（100%）
4-1-3　自動車排出ガス対策の充実 重【指標】電気自動車補助件数	C（2.2%）
4-2-1　監視体制の整備と充実 【指標】河川水の生物化学的酸素要求量に係る基準達成率	A（100%）
4-2-2　発生源対策の充実 【指標】工場・事業場における排出基準超過件数	C（基準値より低下）
4-2-3　生活排水対策の充実 【指標】生活排水処理人口普及率	A（100%以上）
4-3-1　監視体制の整備と自動車騒音対策の充実 【指標】自動車騒音に係る環境基準達成率	A（94.0%）
4-3-2　近隣公害等への対応 【指標】公害等に係る苦情処理件数	A（100%以上）
4-3-3　化学物質への対応 【指標】工場・事業場のダイオキシン類基準超過件数	A（100%）

※進捗状況は，宇都宮市行政評価の評価基準に基づき以下のとおり設定

A：参考値に対する進捗状況が 90%以上

B：参考値に対する進捗状況が 70%以上

C：参考値に対する進捗状況が 70%未満及び基準値未満の状況

参考：「評価 C」となった指標の状況

指標	４－１－３　電気自動車等補助件数					単位	件
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	H32
参考値		—	90	180	270	360	450
実績値	—	—	2				
進捗状況※1		—	C (2.2%)				

【要因】

平成 28 年度に新設した「家庭向け低炭素化普及促進補助金」において「電気自動車」を新たに補助対象システムとして位置づけているが，家庭のエネルギーの自立分散化を目的とした補助金であるため，電気自動車を「蓄電池」として利用する場合においてのみ補助金の対象としている。

蓄電池のうち，定置型蓄電池の申請は予想以上に増加しているが，電気自動車を蓄電池として利用するケースは現時点では少なく，補助申請は伸び悩んでいる。

電気自動車の補助申請が伸び悩んでいる理由としては，蓄電池として家庭に給電できる電気自動車の車種が限られていることや，電気自動車を蓄電池として利活用する場合，家と車を繋ぐ機器を別に購入する必要が生じることなど，ハード面での課題が考えられるほか，そもそも，「電気自動車」を「蓄電池」として利用する認識が浸透していないなど，利用者側への啓発不足などが考えられる。

【今後の対応】

栃木県内の電気自動車の登録件数は，年々増加傾向にあり，本市域内においても同様に登録台数は増加していると推測される。今後については，社会の低炭素化の流れに合せ「蓄電池」として家庭へ給電できる車種も増えてくるものと考えられるほか，啓発面においても，電気自動車が蓄電池として活用でき，移動も可能であるといった優位性もあることを自動車メーカー，ハウスメーカー等と連携し周知することで，補助申請件数の確保に努める。

指標	４－２－２ 工場・事業場における排出基準超過件数（排水等）					単位	件
	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	H32
参考値		—	0	0	0	0	0
実績値	1	3	4				
進捗状況※1		—	C （基準値より低下）				

【要因】

法令の規制対象施設である 56 工場・事業場への立入検査を実施し，排出水の検査を行ったところ，4 工場・事業場において排出基準を超過

【今後の対応】

排出基準を超過した工場・事業場に対しては，速やかに原因究明と改善対策の実施を指導し，改善されたことを確認した。

別紙２－５

人づくり分野の施策の進捗状況

１　事業の取組状況

・　本計画から取組を拡充したもったいない運動を活用した普及啓発に関する取組については，中高生向けの出前講座の新設による取組の充実化を図る。
・　市の率先したもったいない運動の推進については，「もったいない」のこころや言葉，マークを取り入れた事業，イベントの実施したほか，「もったいない残しま１０！」運動などの新しい取組を開始。
・　その他の事業についても，着実に施策・事業に取り組んでいる状況。

２　指標の状況

・　計画期間初年度（平成 28 年度）における人づくり分野の指標の進捗状況は，6 の指標のうち 4 の指標について，達成率が 9 割以上（評価 A）で進捗している。
・　7 割以上 9 割未満(評価 B)となった「環境学習の場と機会」，「地域における環境保全活動を担う人材の育成」についても，8 割後半となっており概ね順調に進捗している。

表：各指標と達成状況

基本事業名・【指標名】	参考値に対する進捗状況（%）
5-1-1　市民総ぐるみによるもったいない運動の推進 【指標】もったいない運動の普及啓発事業に参加した人数	A（100%以上）
5-1-2　もったいない運動を取り入れたイベントの開催 【指標】もったいない運動を取り入れたイベント割合	A（100%）
5-2-1　環境学習の場と機会の提供 重【指標】環境学習センター開催講座等への参加者数	B（88.6%）
5-2-2　地域における環境保全活動を担う人材の育成 重【指標】「こどもエコクラブ」会員数	B（87.6%）
5-3-1　各主体における環境配慮行動の推進 重【指標】家庭版環境 ISO 認定制度認定家庭数	A（100%以上）
5-3-2　多様な活動主体間の連携促進 【指標】環境学習センターの利用件数	A（100%以上）

※進捗状況は，宇都宮市行政評価の評価基準に基づき以下のとおり設定
A：参考値に対する進捗状況が 90%以上
B：参考値に対する進捗状況が 70%以上
C：参考値に対する進捗状況が 70%未満及び基準値未満の状況